

# 北九州を支えるカブトムシ?! 株式会社西原商事ホールディングス BEETLE を訪問して



学習ルーム 廃棄物事業を知る

「株式会社 西原商事」を訪問し、経営企画部の部長 成田 歩さんと井上 稔真さんに話を伺いました。ごみ収集車の名称「BEETLE」は、子ども達がカブトムシみたい!」といったことから、親しまれやすいように名付けたそうです。

株式会社 西原商事は、廃棄物収集・運搬事業、廃棄物処理・リサイクル事業、環境機器販売事業、環境コンサルティング事業、海外事業といった幅広い事業を展開しながら、排出された廃棄物を適正にリサイクルする「循環型社会」を目指しています。



飲料容器の分別ライン

今回、私達は主に自動販売機や企業から出るびん・かん・ペットボトルを回収し、最先端の技術でリサイクルを行っている「株式会社ビートルエンジニアリング若松工場」に足を運びました。「魅せる」がコンセプトのこの工場は、別名 BRC (Beetle Robotics Center) と呼ばれ、スペースワールドをイメージした、工場とは思えないこだわりが詰まった空間でした。次世代資源物処理システムを導入することで、未来の人手不足や従業員の負担を減らすための工夫がなされていました。また、今まで人の手のみで行われていたペットボトルなどの選別作業を、AI カメラで種類別に自動認識し、スカラ型ロボットで選別する AI ロボットの開発を進めており、人とロボットの協働を目指していました。

工場を見学する中で、床にごみなどが全く落ちておらず、隅々まで清掃がいき渡っていると感じました。汚れやすいエリアは常に水を流すなどして、気づいたら清掃するという意識が従業員の中で徹底されていました。

成田さんは、海外事業の拠点の一つであるインドネシアでリサイクル工場を建設し、7 割以上のごみ削減に貢献したメンバーの一人です。工場建設により、学校に行かずごみ山からお金になるものを探していた子ども達の親に働く場所を提供し、子ども達が学校で勉強できる環境を整えることに成功しました。成田さんは「インドネシアの方からエネルギーを感じる」と言われていましたが、私達は成田さん自身からエネルギーを感じました。私達も成田さんのように社会で活躍するカッコいい大人になりたいと思いました。



また、私達一人一人がごみを捨てるときの意識を変えるべきだと感じました。「これくらいなら良いだろう」といった安易な考えや正しい知識がないことで、リサイクルの工場がストップする原因にもなります。このような問題がなくなると、ごみ箱を街中に置くことが困難となり、リサイクルの循環が上手く保たれなくなるそうです。

現場の従業員が働きやすい職場環境づくりがなされていて、今後こういった企業が増えていって欲しいと思いました。

最後に、子どもから大人まで幅広い世代が楽しく学べる工場になっていますので、ぜひ皆さんも足を運んでみてください。

(北九州市立大学地域創生学群 2 年 金子穂乃花・古井陽)



BRC工場見学通路



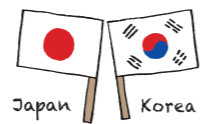
BRC ビートルエンジニアリング 若松工場にて

# 「韓国ESDスタディツアー2022」活動報告

日時: 2022年11月30日から12月2日までの2泊3日  
 目的地: 韓国 RCEドボン区 (大韓民国ソウル特別市道峰区)  
 参加者: 調査研究・国際プロジェクト4名、鈴木氏 (ESD-J 理事)、岡野氏 (久留米大3年)、ソン・ミンホ (通訳兼コーディネーター)

主な活動内容は以下のとおりです。

- 道峰区庁視察: オ・オンソク道峰区長 表敬訪問
- 昌慶 (チャンドン) 小学校で ESD 授業を実施
- 青少年マウル食堂の施設見学
- RCE Dobong-gu ESD 講師との交流会
- 道峰区内のドラマロケ地を視察



青少年マウル食堂訪問では、オンライン交流会では分からなかった詳細部分や RCE ドボン区の ESD 講師の養成と活動の実態について学ぶことが出来た。また、小学校3年生を対象に ESD 出前授業を実施し、私たちの ESD の取り組みをご理解いただいた。ロケ地視察では車両を手配くださり、オンライン交流会での約束を実行して下さったことに感謝したい。



**編集後記** コロナ禍で制限されていたことが出来るようになりました。会員の皆さまのおかげで、学校での児童や生徒に向けた講座、市民センターでの市民に向けた出前講座など、多くの活動が再開することが出来ました。これからも北九州 ESD 協議会が継続し発展していくために一緒に頑張っていきたいと思います。(北九州 ESD 協議会 山田 大輔)

発行: 北九州ESD協議会 事務局  
 編集: 北九州ESD協議会ブランディングプロジェクト  
 無断転載を禁じます  
 Copyright © 2007 Kitakyushu ESD Council  
 All Rights Reserved.

# 未来パレットだより

ESDとは、「持続可能な開発のための教育」を意味する英語 Education for Sustainable Development の頭文字をとったものです。

## 市民が紡ぐSDGs未来都市の歴史! ~「語り合おう! 学び合おう! ~北九州のパブリックヒストリー~」講座報告

映像作家の早乙女愛さんと平和のまちミュージアム館長の重信幸彦さんをお招きして、11月26日(土)北九州まなびと ESD ステーションで講座を開催しました。SDG16「平和と公正を全ての人に」をテーマに活動しているメンバーなど約40名が集い、第一部では学び合い、第二部では語り合いを行いました。

第一部では、東京大空襲を語り継いできた作家、早乙女勝元氏の志を受け継ぎ、活動している勝元氏の娘の早乙女愛さんから、「戦争体験を語り継ぐ・聞く・伝える方法」と題した話がありました。「体験した当事者が伝える方法」として、一夜の空襲で約10万人が亡くなった東京大空襲の記憶を風化させず、地域の歴史として伝えようとした勝元氏が残した小説、絵本などを通して話されました。また「体験を聞いた非当事者が他の人に伝える方法」として、戦争を知らない世代の愛さんが行っている映像作品で伝え残す活動の紹介がありました。「大切なことは、情報や知識の継承だけでなく、いのちの重みの継承」という言葉を残してくださいました。

次に、重信館長からは、「歴史は誰が語るのか? ローカルな歴史実践」として、パブリックヒストリーについて話していただきました。この考え方を駆使するために、①「歴史実践」②「事実とは何か?」③「実践と切実さ」という3つのキーワードが投げかけられました。まず、①では、多様な人々による歴史語りの現場から生まれた概念

が、その時代の人々の歴史に対する認識の総体を作り上げるとのことでした。②では、曾田共助による小倉郷土史会の実践を紹介しました。幕末に、小倉のまちの歴史が喪失した危機感から、歴史を残そうとした曾田らの活動が、今の北九州の歴史の総体を支えているとのことでした。③では、体験の当事者がいなくなっていくという切実さと危機感から、八幡大空襲を語り継ぐ「平野塾」などの活動について身近な問題に寄せて話していただきました。



第二部は、「NPO 法人好きっちゃん北九州」理事長の入門真生さんをファシリテーターに、平野塾や門司空襲と水害の記憶を語る会を企画してきた西門司市民センター館長の渡辺いづみさんと、到津遊園(現到津の森公園)や北九州市の公害克服の歴史を絵本等で表現し語り継いでいる北九州インタープリテーション研究会の原賀いずみから、活動を始めた動機や継続してきた思いなどが語られました。

次に、30代と若いながらも、戦争経験者から聞き取った話を漫画で語り伝える活動を行っている榊島由彬さん、民間の北九州平和資料館を受け継ぎ、自ら資料館を建設し伝え残そうとする小松芳子さん、平和の駅 運動プロジェクトの北九州市立大学法学部法律学科1年の弓場理史さんが、それぞれの思いを語り合いました。地域の歴史・記憶を掘り起こし、紡ぎ合わせることで、新たな北九州の歴史の総体が継承されていくことはSDG11「住み続けられるまちづくり」を目指すことにつながり、SDGs 未来都市を支えるSDG17「パートナーシップ」の場を目指してきた北九州 ESD 協議会にふさわしい講座であったのではないのでしょうか。

(北九州 ESD 協議会 ブランディングプロジェクトリーダー 原賀いずみ)

語り合おう! 学び合おう!  
 ~北九州のパブリックヒストリー~  
 地域の歴史を掘り起こし、次世代に共有していく意義について語り合い学び合う交流会を開催いたします。

2022年 11月26日(土)  
 14:00~16:30(予定)

ゲストスピーカー  
 語り手① 早乙女愛  
 語り手② 重信幸彦  
 語り手③ 入門真生

当日のプログラム  
 13:30 受付開始  
 14:00 開会  
 14:10 語り場①  
 15:00 学び場①  
 15:40 語り場②  
 16:30 閉会

参加費 無料(お弁当は別途です)  
 定員 30名程度  
 開催場所 北九州まなびとESDステーション  
 申し込み 下記の方法をお願いいたします。  
 TEL:093-531-5011 (LINE: 1800-4790)  
 E-mail: k-esd@k-esd.jp





# ESD活動のこれまでとこれから

今年度もESD協議会では、新しく開始されているチーム制度などで多くの活動が進められました。

それぞれの課題解決に向けて、賛同する仲間と新しい協働のもと活動を実施しています。

今回は「これまでの活動」「これからの活動」「活動するにあたっての思い」について、それぞれ各チームからメッセージをいただきました。

それぞれどんな思いがあって、どんな活動をしているのか、ご覧ください。

## 『あそぼうさい』によるESDの担い手育成と環境教育プログラムの構築

『遊ぼう』と『防災』を掛け合わせた『あそぼうさい』を、各地で実施しています。あそぼうさいは、体験を通じて防災を実感するコンテンツです。

北九州の学生達が指導者となり、運営しています。学生達が運営することで、年齢の近い子ども達も親しみをもって活動することができます。この活動を通して、学生達も指導者として育て、ESD推進の頼もしい人材となっています。

災害は環境問題とつながっており、一人一人が環境へ配慮することが防災にもなるということも学べます。

また、日頃の防災や災害時に大切な要素である「助け合い」や「支え合い」について、遊びながら実感できるコンテンツも多く、地域でのコミュニティの育みやまちづくりの取り組みにも生かされています。

今後も、防災対策、環境対策、ESD活動として、『あそぼうさい』に取り組んでいきます。



団体名：NPO 法人好きっちゃ北九州

## 私たちの関係人口増加プロジェクト

私たちは、主に自然観察・清掃活動・ニュースポーツ等に取り組んでいます。活動の背景には、世代を問わず、コミュニケーション不足や体力低下等が挙げられます。これらの活動を通して、他人を思いやる心の醸成やコミュニケーションの促進、健康寿命の増進を図ることを目的としています。

また、他人事は自分事、頼まれ事は試され事として捉え、筋を通す力（プリンシプル）や長所を見出し、内なる力（レジリエンス）を引き出せるような活動にしたいと思っています。

日常生活では、私たちが取り巻く環境は目まぐるしく変化し、社会の課題も潜在化から顕在化、多様化しています。私たちは、老若男女問わず、持続可能な社会の実現を目指すきっかけづくりのため、できる範囲内で、できることから次世代へつなぎ、継続・実践していこうと思っています。



団体名：私たちの未来環境プロジェクト

## 持続可能な平和学習への取り組み「戦争を知らない世代が次の世代へ伝えるには」

「北九州 戦争を次世代に伝えていく会」は西門司市民センターと協力し活動に取り組みました。「漫画というツールを使い、戦争体験談を次世代である学生等に伝えていく」という活動は現在までに5冊を発売しています。令和4年からは「命の縦糸」と「最後の手紙」をテーマにした講演活動も始めました。「歴史を学ぶ」だけでなく、「歴史から学ぶ」という考え方をもち、過去の歴史は他人事から自分事になると思っています。

戦争の悲惨さのみを伝えていくのではなく、戦争という歴史を学ぶことで今生きていることへの感謝の気持ち、命をつないでくれた先人たちへの感謝の気持ちを育むこと。そして過去を知ること、今をどう生きるかを考えるきっかけにしていくような「心を磨く」機会を創造していきたいと考えています。



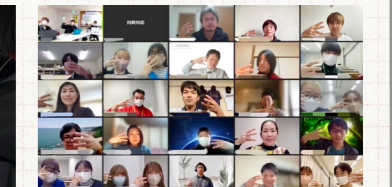
団体名：北九州 戦争を次世代に伝えていく会  
(北九州市立西門司市民センター)

## ESDツキイチの集い

今年度の「ESD ツキイチの集い」は、7月に「ジェンダー平等」、10月に「野外活動」をテーマとして実施しました。

11月には、SDG10に焦点を当てた「国際交流 in まなびと ~教えて!! みんなが育った〇〇~」を実施しました。出身国の異なる参加者でグループを作り、各自で持ち寄った思い出の品の紹介やSDGsについて考えるワークを行いました。この活動を通して、お互いの国の文化について理解し、新たな発見や気付きから国際交流に関心を持つことができました。

さらに、12月には、SDG6に焦点を当てた「安全な水をつなごう! ~まちづくり大作戦~」を実施し、世界のトイレ事情や水資源問題等について説明をしました。北九州市立玄海青年の家から講師をお招きし、体験型水教育プログラム「プロジェクトWET」を通して、水資源の重要性について知識を深めるとともに、「今、自分たちができること」を考えるきっかけづくりができました。1月には、SDG11に焦点を当て全国から参加者を募り、各地の「地域防災」についてオンラインでの討論会を実施しました。NPO 法人好きっちゃ北九州の入門先生さんを講師に招き、グループワークで出たその県の特徴を踏まえた防災について話し合いました。来年度もいろいろな企画を考えて、「参加してよかった」と思われるように頑張りたいです!



団体名：北九州市立大学 ESD プロモート実習

## にわとりキャンプ ～にわとりから学ぶ「食」と「命」～

本年度は協議会より助成をいただき「にわとりキャンプ」を行いました。子ども達がにわとりに触れ、知り、学び、とり肉を使った料理を行い、最終的に「にわとりをさばいて食べる」ものです。参加する子ども達には、食べものと命のつながりについて何かを感じてもらいたい...そのような思いで取り組みました。

このプログラムは大学生のスタッフの発案によりスタートしました。中学・高校生のメンバーとともにミーティングを行い、一緒に考え、実施に結び付けました。彼らと最後までやりとげることができ、本当にうれしかったです。

若い人たちは「想いを形にする」経験をたくさん積んでもらいたい...と日々思っています。そのためには、こうした現場を作り続けていきたいと、今を生きる大人の一人として、また次世代への責任として考えています。



団体名：特定非営利活動法人 KID's work

## 「八幡大空襲 戦後77年 慰霊祭」 ～市民の戦争体験の語り継ぎ、 平和の尊さ・命の大切さを広める活動～

平野塾は、①聞き書きによる証言集発行、②学校や市民センターでの語り部派遣、③交流活動などを続けて今年で9年目を迎えました。

交流活動は、「語り部同窓会」「北九州平和音楽祭」「八文字カフェ」と、次第に幅広い世代を取り込む集まりへと進化しています。

「八幡大空襲慰霊祭」は、2020年にコロナ禍で室内活動が制限されたため、会場を小伊藤山公園に移しました。園内には1945年8月8日、B29爆撃機から焼夷弾の無差別絨毯（じゅうたん）爆撃による死傷者約2500名を悼む慰霊塔が建立されています。

今年度の慰霊祭は、平野まちづくり協議会、平野市民センター、北九州市立大学「新日鐵八幡うたう会」に加え、新しく前田まちづくり協議会、八幡医師会看護専門学校「小さな平和運動連絡協議会・ナイチンゲール平和の灯運動」の学生や鳴水小学校「ハーモニークラブ」の児童も参加し、総勢約200名で行われました。



団体名：聞き書きボランティア「平野塾」

## 地域の人材をつなぎ “希望ある未来の街”創り

「若松秋桜会」は、若松区響灘埋立地のコスモス街道花壇作りから1994年に発足し、1997年に「COP3 京都会議分科会」へ参加して、女性の目線で「身近なことから出来る事から」をテーマとして3R運動等に取り組んでいます。

スキルアップを図るため、各分野のエキスパートの方を講師にお招きして学習会を開催し、また会で独自の環境家計簿を作成しました。現在では脱炭素社会への持続可能な活動として、若い人達への啓発活動も行っています。

2006年の北九州フォーラムでの、ワンガリ・マータイ博士の呼び掛けもあり、「鳥がさえずる緑の回廊植樹会」では30万本のどんぐりの苗木の植栽を15年間で達成しました。

21年間出展し続けているエコライフステージや市民センター活動は、世代を越えた大切な草の根活動であり、足元から世界へつながる対話はSDGs達成に向けて加速します。「輝く未来は今、ここから私から」を掲げ、希望あふれる時代を目指して行動します。



団体名：島郷 ESD ふれあい実行委員

## エコライフステージ



11月19日(土)・20日(日)に勝山公園にて、3年ぶりに対面開催となったエコライフステージ 2022に参加いたしました。出展ブースでは、「SDGs 緑日」をテーマに、小倉竹あかりの竹を再利用した輪投げや、SDGsの目標をつけたヨーヨー釣り、ジオ & バイオ研究会の方と協働で「ジオかるた北九州マップ」を使ったすごろくを行いました。19日はあいにくの雨天でしたが、イベント初日ということもあり、たくさんの方に楽しんでいただきながらSDGs・ESDについて学んでもらいました。20日は天候にも恵まれ、1日目の3倍近い方にお越しいただきました。また、2日間で合計3回のステージ発表を行い、福岡北九州フェニックスのキャプテン中村道大選手を迎えて環境首都検定のO×クイズを行いました。

参加者には、ていたんの限定グッズをプレゼントし、2日間を通してたくさんの方にSDGs・ESDを楽しみながら学んでいただけました。

(北九州市立大学地域創生学群1年 園田和希)